

滋賀県における輸血検査精度管理の有用性

— 輸血検査の標準化を目指した取り組み —

○茂籠弘子、一岡英樹、吉田和夫、山下朋子、笠井晴生、的場泉
(社団法人滋賀県臨床検査技師会精度管理委員会輸血部会)

【はじめに】

滋賀県臨床検査精度管理事業は、滋賀県と県医師会の支援を得て昭和 59 年から生化学精度管理としてスタートし、輸血検査精度管理は平成 2 年から加わり現在 45 施設の参加を得て行われている継続事業である。現在、全国規模で行われている輸血検査精度管理の内容は、不規則抗体同定や血液型亜型の判定などが盛り込まれているため、小規模の施設や、特殊な試薬を持っていない施設では参加しにくい傾向にある。我々は、県内の輸血医療機関すべてが参加できるような内容で、標準化を目指した精度管理活動を行ってきたので、その取り組みと有用性について報告する。

【取り組み内容】

サーベイ内容：① ABO 血液型・Rh(D) 血液型 ② 交差適合試験 ③ 試験管法による凝集反応の判定の 3 項目および身近に遭遇する症例をドライスタディ形式で実施した。精度管理の成果を確認するため、平成 16 年度から 4 年間同様の内容で実施した。

フィールドバック体制：平成 16、17、18 年度は解答方法を記述式で行い、事後に各施設に添削指導し返送した。19 年度は FD に選択式で入力する方法で行い、結果を詳細に分析しコメントを添えて返送した。

フォローアップ体制：実技指導が必要な施設に対しては個別の実技講習会を実施した。輸血研究班と協力し初級輸血検査実技講習会を毎年開催した。

【結果】

検査項目ごとに間違った解答の施設数を表 1 にまとめた。

(表 1)

	16 年	17 年	18 年	19 年
弱陽性 D を D 陽性 または陰性と判定	2/43	5/43	—	6/45
交差適合試験の凝 集を見落とし適合 と判定	12/42	5/43 0/43	7/45	1/45
試験管法による凝 集反応の判定で 陰性を陽性と判定	5/42	7/43 9/43	4/45 8/45	5/45

【まとめ】

- 平成 16 年に実施した交差適合試験で 12 施設が凝集を見落とししたことを問題視し、個別の実技指導を行った。参加された施設においては、確実に成果がみられた。
- ドライスタディ形式の症例問題では、検査結果を臨床サイドに伝えることを想定した様式で行ったが、的確なコメントができる施設が明らかに増えてきた。
- 輸血検査は検査結果が定性的であるため標準化は難しい。凝集反応を判定する際の基本である、陰性検体を陰性と判定できる目と、弱い凝集(弱陽性)を検出する手技を習得できる内容を、継続して取り組む必要がある。
- 輸血を必要とする患者様に平等に安全な輸血が行われるように、今後も輸血検査研究班と協力し、日臨技の標準法に準じ最低限必要な検査レベルの設定と普及、啓蒙を続けたい。